

導入事例

超高速ポータブルSSD

PRO-G40  
SSD

# プロクリエイターたちの作業環境を一変させた超高速転送 DTM制作現場の最適解、Thunderbolt 3対応「PRO-G40 SSD」



業界でDTMの最前線を走るクリエイターたちは、ストレージ使いにも強いこだわりがあります。そんな業界のベテランたちに、容量・速度・安定性、どのポイントで選んでも「申し分ない」と高評価を得ているのが、超高速ポータブルSSD「PRO-G40 SSD」。楽曲制作のみならず、ベーシスト、アレンジャー、プロデューサーとして、またライブサポートなど、音楽制作の現場で幅広く著名アーティストたちを支えてきたベテランミュージシャン、赤堀眞之氏に、ハイパフォーマンスを追求したSSD活用について語っていただきました。

導入商品



ウェスタンデジタル  
SanDisk Professional  
Thunderbolt 3 / USB-C 両対応  
超高速ポータブルSSD  
**PRO-G40 SSD**



## 激増するデータ対策としてのポータブルSSD。課題は転送速度だった

—— 普段はストレージ、特にSSDをどのように利用しているのか教えてください。

ポータブルSSDを複数台所有しています。1台当たりの容量は2~4TBで、全部で20TBほどを常に持ち運んでいます。楽曲のデータを保存し、スタジオや自宅、ライブ会場などを行き来しています。いわば大事な書類の入ったブリーケースのようなものですね。

—— 20TBとは大容量ですね! そんなに容量が必要なのでしょうか。

Macの内蔵SSDに楽曲データを保存することも可能ですが、そうなるとやはり容量が少ない。一般的には1~2TBなので、すぐにいっぱいになってしまいます。そのため、音楽制作アプリケーションはMac内蔵SSDに、楽曲データは外付けSSDにと、使い分けています。1曲あたりのデータ量が非常に大きいので、どうしても大容量の外付けストレージが必要なんです。

—— 大容量で選ぶならHDDのほうが安価になるとは思いますが、  
あえてThunderbolt 3対応SSDを選んだ理由について教えてください。

読み書きの多いデータはHDD、速さ重視の部分ではSSDなどと、適材適所で利用することはいつも考えています。持ち運びとなればSSD、接続はおそらく現時点で最速レベルのThunderbolt 3がベストでしょう。経験上、USB接続のSSDだとアプリがフリーズしてしまうことが多く、Thunderbolt 3接続だとそれが少なかったということもありますね。

—— PRO-G40 SSDを導入されて、どのように変わりましたか。

まず単純に、ものすごく速くて驚きました。Thunderbolt 3接続で約20GBのデータ転送にかかるのが10秒足らず。SATAで接続されたMacの内蔵SSDに匹敵する速さを体感しています。PRO-G40 SSDにより、「速くて快適だが、容量が足りない内蔵SSD」「大容量だが速度が出ず、不安定な外付けSSD」のジレンマがあっさり解決し、作業環境が一変しました。



## 生産効率に直結。音楽制作の現場ではThunderbolt 3接続がマストに

—— Thunderbolt 3の優位性を実感されたようですね。

転送速度は仕事の効率を左右するものなので、一緒に働くチームのメンバーと、いつも様々な製品、環境をテストしています。試行錯誤の結果、やはりThunderbolt 3接続したPRO-G40 SSDが高速で安定しているという結論にたどり着きました。Thunderboltについては、2の時代まではまだ速度に不満がありましたが、3になって一気に性能が向上したと感じます。

—— PRO-G40 SSD (4TB) の読み出し速度はThunderbolt 3接続時に最大3,000MB/s。とても高速なSSDです。

例えばライブのリハーサルで、「この曲、長いから少しカットしましょう」なんて意見はすぐに出てくるものです。以前はちょっとした変更でも30分程度はかかっていましたが、PRO-G40 SSDになってからはこれがあっという間になりました。

—— まさに生産性につながる問題といえますね。

データ転送速度が改善され、環境が安定したことで、アプリを複数同時に立ち上げたり、複数の作業を並行して行うことも可能になりました。アーティストたちと仕事をすれば、「こんなことをやりたい」という意見はよく出てきますが、それを実現するのに時間がかかりすぎると、その間にアイデアが死んでしまいます。僕はアーティストたちのひらめきをすぐに形にしたい。そういった観点でもやはり転送速度は重要です。

—— アイデアの鮮度があるうちに、しっかり活かすことができるわけですね。

僕自身、いわゆるやる気スイッチのようなモノが入る瞬間ってあります。「降りてきた!」「今やる!」という。その瞬間に一気に作業したいので、そこでロードに時間がかかるともうやる気がそがれてしまいます。クリエイティビティに大きな影響を与えますから、ストレスフリーな環境作りをいつも心がけています。ストレージなどのメーカーにはさらなる品質向上により、引き続き制作環境を支えてもらうことを期待しています。

取材にご協力いただいた方



赤堀 眞之 氏

1977年12月21日、横浜生まれ。  
ベーシスト・プロデューサー。  
2000年に自身のバンドPuZZにて  
Polydorよりメジャーデビュー。  
ベーシストやアレンジャーとして活動をし、  
バンド解散後にフリーランスとして活動を開始。  
現在は小室哲哉氏のアシスタントとしても活動中。

主なサポートアーティスト

堂本光一、小室哲哉、TM NETWORK、平原朋美、佐藤健、  
6時のおやつ、寺島博太